

令和元（２０１９）年度 第１回柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進（策定）委員会 議事概要

- 1 日 時 令和元（２０１９）年８月２９日（木） 午後２時００分から午後３時５５分まで
- 2 場 所 柏崎市役所 ４階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 小林英介会長、青柳勸副会長、阿部尚義委員、飯塚政雄委員、西川伸作委員、田村美子委員、山崎智仁委員、山田秀貴委員、吉田匡慶委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局長、会計管理者
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、企画係員１名

4 会議概要

- (1) 開会 総合企画部長から開会宣言
- (2) 会長挨拶
- (3) 柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況説明
資料に基づき事務局から説明
- (4) 柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理に関する質疑、意見交換
委員により以下のとおり審議が行われた。

発 言 者	発 言 概 要
【第１節 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる／基本的方向１ 雇用対策の強化を図る について】	
委 員：	女性の生産年齢人口における就業率という評価指標について、当初の63.0%に対し現状が66.7%となり評価がSとなっているが、目標値が65.0%では、もともとハードルが低かったのではないかと。また、報告書の内容には、この評価指標に関する施策が見当たらないように思うが、評価が高い施策が、何によって高評価となったのかは重要であると感じるため、なぜ評価がSとなったのかをお聞きしたい。なお、自社において、子育て世代の社員の話を聞くと、職場から近い保育園への子供の入園を望んでおり、もし、抽選で外れ他の保育園に通うとなると、出勤日数を減らすなど、働くことに影響するとのことである。女性の就業率を上げるのであれば、共働き世帯の子供は優先的に希望する保育園に入園できるなどの配慮が必要なのではないかと。育児をしなければならない親が離職せずに、仕事との両立をしやすい環境となるので、考えていただければと思う。
総合企画部長：	目標値の設定については、低いという見解もあるとは思いますが、一定程度数値を伸ばすといった意味で、御理解いただきたい。施策展開については、報告書の６ページに記載している女性活躍推進事業により、県内では燕市に次いでハード面とソフト面両方から、女性の就業を支援している。
委 員：	進行管理報告書資料のNo.8に記載している事業であると思うが、１回当たりの参加者が１５人のセミナーを３回開催し、補助金の交付が２件となっていることが評価の根拠であるということか。
総合企画部長：	事業の実績によるものではなく、評価指標に対する達成度で評価をしている。
産業振興部長：	女性活躍推進事業については、資料に記載のとおり、女性の就業率が県内で低位であり、事業展開により就業率の向上を図るという課題がある。事業を行ってもそれが就業に結びつかないという実態であり、ブラッシュアップして事業に取り

組んでいきたい。

子ども未来部長： まち場の保育園は人気があり抽選率も高くなっている。入園に当たっては、保育の必要性によるポイント制になっており、そのポイントの高いものを優先している。その後は、抽選により入園児を決定している。

委員： 働き手が不足しており、多くの企業が困っているという現状において、男女が共に社会参画できるように制度を整えていかなければならない。評価がSとなっている成功事例の仕組みが大切であり、それを広めていけばよいのではないかとと思う。地方都市が衰退していく中で、若い男女が明るく働いていける施策がどういうものなのか、それをどのように強力に進めていけば活力のある就業につながるのかを引き続き議論しながら、検討していければと思う。

産業振興部長： 男女問わず、雇用促進協議会を中心に就業率の向上に向けて様々な取組をしている。しかし、なかなか効果的なものがなく、地道な取組を重ねていくしかないのが現状である。女性の活躍推進についても、セミナーをやれば就業率がどんどん向上するということではないが、地道に取組を続けながら、いろいろな意見を頂いて、効果的な方法を検討し進めていきたい。

委員： 女性の働き方がどんどん変わってきている。営業職という、かつては男性しか応募がなかったが、今は求人を出すと女性の応募が多い。そういう現状からも、女性の働くことへの意識が変わってきているように感じており、これから人口減少において女性の労働力は身近なところにある戦力だと思うので、充実した取組を進めてほしい。

委員： 新規学校卒業者の就職率について、市内に就職しない理由は把握しているのか。業種、職種、賃金や住環境など、どのように分析しているのか。また、大学卒業者の市内就職者以外は、どこへ行ったのか追跡はできているのか。

産業振興部長： 高卒者の就業率が落ちている原因は、就職を希望する人が減っているということが挙げられる。また、就職を希望する人の就職先としては、柏崎刈羽管内が減り、管外が増えていることから、地元への就職希望者が減っているという実態である。具体的な職種までは把握していないが、卒業生が希望する職種と、求人する企業がマッチしていないところがあるのではないかと捉えている。大卒者の管内就職先については、産業大学は製造業が一番多く、半分を占めており、工科大学については、製造業及び建設業が大半を占めている。市外就職者の就職先については、資料がなく不明であるが、市内大学の卒業者の希望する職種と求人企業が合っていないというのが現状である。

委員： 企業誘致にも関係してくることだと思うが、学生が希望しない企業を誘致してきても、またその企業が人員不足に陥ることになるので、市内卒業者がどういったことを希望して市外へ出て行ったのかという点をしっかりと分析した上で、取組を進めてもらいたい。

委員： 若者や女性にとってやりたい仕事が、地域にあるかどうかが非常に大事なことである。官民ともに、やりがいのある仕事を作っていくことを考えていった方がよい。例として、リノベーションまちづくりを進めている草加市では、空き家を利用して起業した人が何人もいる。また、主婦を対象に月3万円ビジネスという主婦の能動性を促す仕事を作り、成功している。そういった人の能動性を促す仕事を作っていくためにはどうするか、形式的なものではなく、ソフト面を考え、やりがいのある仕事を作っていくことこそが、U・Iターンによる若者の地元就職につながると考える。

産業振興部長： 魅力ある仕事を創り出すのは、非常に大切なことである。ITやIoTといった

これからの時代に合った仕事や、主婦の皆さんが積極的に活動できる仕事も大切であるので、こちらも勉強しながら、一緒に考えさせてもらいたい。

委員： 報告書３ページに記載のある人口の推移において、令和４２年にはかつての人口の半分になると認識し、改めて危機感を覚えた。「特に、女性を中心とした若い世代の都市部への流出は顕著となっており」との記載があるが、その原因分析を行っているのか。

総合企画部長： 結婚や就職による流出が予想されるが、明確な検証がこれまではなされていなかった。今年度第２期総合戦略を策定するに当たり、業者委託による要因分析を行い、結果についてはお示ししたいと考えている。

委員： この現状について職場内で取り上げて、１０人ほどの若い女性従業員に原因などを聞いてみたところ、柏崎は男性に優しいまちだということであった。男性が喜ぶような大盛のラーメンを食べられるお店は幾つもあるが、女性がランチを楽しめるようなお店が少ない。スイーツや雑貨、服飾品についても同様で、新潟市や近隣の長岡市又は上越市で購入しているそうで、そういった店舗が市内にあれば、購入する側だけでなく、働く場の創出にもなり、良いのではないかと感じた。自社においては、全体の８割に当たる４００人近い女性従業員がいるので、これを機にアンケートなどを実施しても面白いのではないかと考えている。

【第１節 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる／基本的方向２ 地域産業の振興を更に進める について】

委員： インバウンド推進事業について、外国人は費用と時間が限られている中で日本に来て、その中でどこを選んで観光するかということになる。今はどこもインバウンド推進に取り組んでおり、東京、大阪や北海道、京都、奈良などレッドオーシャン（激しい価格競争が行われている既存市場のこと。）と横並びで考えたときに、柏崎を選択するだろうか考えると難しい。インバウンドに反対するわけではないが、外国人観光客に来てもらうような理由などを確立していかなければ、形式的な話で終わってしまう可能性が高い。インバウンドではなく、団塊の世代の国内観光客にフォーカスした事業を組んでいくなど、やり方はいろいろある。また、インバウンドに限らず、世の中のはやりに乗るのではなく、他の自治体と差別化を図っていかなければならないということを考えてもらおうと、より効果的施策となるのではないかと考える。

産業振興部長： 市としても、同じような視点で、今、外国の旅行会社のモニターツアーを実施しており、ターゲットをある程度絞りながら施策展開をしていきたいと考えている。

委員： インバウンドが観光の主力でないというのは、観光業界の定説である。やはり、ターゲットは日本である。レッドオーシャンに入っていくのは、外国人の限られた投資からすると、余り良い方法ではないと思う。他の施策にも言えることだが、職員の数も予算も限られている中で、はやりものに左右されることなく、選択と集中をしていかないと、一番効果を出したいところで効果を上げられないということになる。思い切った発想も必要ではないかと思う。

総合企画部長： 市長が昨年から行っている事業峻別が、まさに今の御意見のとおりである。今までどおりの施策展開では、財源不足に陥る。少子高齢化と人口減少だけではなく、公共施設についても公共施設等総合管理計画を立てて取り組んでいる。選択と集中により、市民サービスの充実となるよう、市長を始め職員も考えていきたい。

委員： 水球は他になく、柏崎市が誇れるものである。インバウンドにおいて、水球にタグ付けされた人たちをターゲットに展開するのがいいのではないか。「日本の柏

崎は水球のメッカである」という国内外に向けた発信の仕方が適しているのではないかと思う。

教 育 部 長： 水球については、東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン事業の取組を集中して行ってきた。オリンピック出場権にかかわらず、セルビア、モンテネグロの両国から事前キャンプの内諾を得ている状況である。是非、市を挙げておもてなしをしていきたいと考えている。また、昨年度は、ブルボンKZ柏崎が優勝し、パレードが盛大に行われた際には、平日にもかかわらず1,500人を超える方から歓迎をしてもらった。そういった盛り上がり大切に、少しずつ根付いてきた市民の皆様の水球に対する愛着心やチームに対する期待を上昇させていながら、オリンピックを一つの区切りとして、その後の展開をどうしていくかも検討していきたい。

【第2節 子どもを産み育てやすいまちをつくる／基本的方向1 地域で子育てを支援する について】

- 委 員： 放課後児童健全育成事業について、人材の確保が難しいのではないかとと思うが、現状をお聞きしたい。
- 子ども未来部長： 放課後児童クラブは現在市内に23か所あり、今年度から西山児童クラブを除く22か所を社会福祉協議会に業務委託をしている。市直営で行っていたときも、人員不足であったが、受託先でも同様であり、募集を続けている。特に夏休み期間は、子供の数が増え、利用時間も長くなるため、当然支援員の数が増え、人員確保に苦慮している。委託したから全て業者に任せるということではなく、人材確保について協力していきたいと考えている。なお、児童クラブだけではなく、保育園の保育士も不足しており、随時募集している状況である。
- 委 員： 児童クラブで働く人は、パートが多く、最低賃金に近い要件で雇用されているのではないかと推測する。委託費に関連する部分だとは思いますが、最低賃金が上がってきていることも踏まえ、委託したとはいえ、その辺りの労働条件などにも目を光らせて、慎重な運営をお願いしたい。
- 子ども未来部長： 働く方の勤務条件が良くなければ人材確保は難しい点からも、検討しながら取り組んでいきたい。
- 委 員： 私の家庭では、妻が家から離れた職場に勤めており、自分は自宅近くで仕事をしている。子供は、職場に近い方が預けやすいということで、妻の職場近くの保育園に通っている。各家庭において、様々な働き方をされており、それぞれの事情が違うため一概には言えないが、まち場の子供が集中する保育園では保育士が不足し、一方で、預かる子供が少ない保育園では、子供の数に合わせたぎりぎりの保育士でやっているため、出勤時間前から子供を預けたくてもその時間には保育が実施されておらず、預けられないといった問題がある。そういった細かいニーズを聞いた上で保育の体制を整えていかないと、子供を産み育てやすいまちになっていかないのではないかとと思う。また、母親に限らず父親も含めて、働きながら子育てをしていくためには、こういった相談窓口があるのか分らず、保育園に相談すると、現状について聞くことはできるが、これから先、子供を預けて働きたいと考えている場合、預けることが可能かどうかということとは分からない。そういった情報が発信される場所が分かりやすいと、子供を育てやすい環境になっていくように思う。
- 子ども未来部長： 各保育園によって保育時間や受入対象年齢（月齢）が異なっている。確かに、空き情報については、問合せがあれば電話でもお答えしているが、ホームページなどで状況が分かるようにはなっていないため、研究させてもらいたい。

【第2節 子どもを産み育てやすいまちをつくる／基本的方向2 若者の出会いの場をつくる について】

質疑・意見なし

【第3節 地域の活力を担う人材をつくる／基本的方向1 地域産業を担う人材をつくる について】

委員： 柏崎リーダー塾の第1期生として、1年半のカリキュラムを受講した経験と、本委員会にも関係されている方がいることから、経済的な視点を取り入れることを提案したい。いかにまちの経済を回していくかという視点を取り込んでもらうと、卒塾後の活動も変わってくると思う。まちの経営という視点では、市はこの事業に税金（資金）を投入しているので、それ以上のリターンがなければマイナスになるということを考えて、運営を行うことが大切である。

総合企画部長： 7月から第4期柏崎リーダー塾がスタートした。地域経営として、自治体も稼ぐ、民間も稼ぐということは、御意見のとおりであり、今期のカリキュラムが現在進行中であるためこういった形になるかは分からないが、稼ぐといった視点に特化したカリキュラムについては、今後検討していきたい。

委員： （リーダー塾に関係する者として）リーダー塾は、産官学が連携し公共心を一番の理念としている。意見を聞いて稼ぐという視点について理解した。公共を維持していく上で稼ぐということが、リーダー塾開講当初よりも必要な時代になってきているのだと思う。リーダー塾の運営の中で、可能であれば、稼ぐという視点を反映させていきたい。

【第3節 地域の活力を担う人材をつくる／基本的方向2 愛着や誇りを育む人材をつくる について】

委員： 評価指標1の柏崎が好きだと思う小中学生の割合が当初81.3%に対し、2の引き続き柏崎に住みたいと思う小中学生の割合が40.9%と約半分である。好きだけに住もうとは思わないという理由について、調査しているか。

総合企画部長： 理由について、深掘りはしていない。中学生くらいになると、柏崎は好きだが、都会への憧れから一度は外へ出てみたいという思いは推測されるが、今年度調査を行うので、その辺りについても分析していきたい。

教育部長： 教育委員会で、いろいろな事業所から協力していただき、お仕事体験塾を実施しており、今年は700人を超える参加があった。参加した小学生に行ったアンケートでは「柏崎が好き」、「柏崎に住みたい」と回答した方が8割を超えた。中学生、高校生と成長するにつれて少しずつ意識の変化が出てくるというのは、学校現場でも間接的には分析している。

委員： 小学生の好き嫌いを評価指標としていること自体に疑問を感じる。そのときの気持ちで答えも変わるのではないかなと思う。むしろ、授業を通じて、徹底して柏崎の魅力を体験したり教えたりしていくという機会を増やしていくことで、中学生、高校生と成長するにつれて愛着心が強くなっていくのではないかな。

委員： この評価指標は、5ページ（第1節・基本方向1）の新卒者の市内就職率につながっていくと思う。小中学生のうちから、柏崎への愛着を醸成していかないと、高校卒業後に市内に就職するという割合は上がっていかないのではないかな。大学についても、学びたいことがあるかという点はあるが、大学生にも共通して言えるのではないかなと思う。

【第4節 定住を促す魅力あるまちをつくる／基本的方向1 柏崎らしさを創出する について】

委員： 評価指標としている地域ブランド調査による全国魅力度ランキングについて、上

位にいる自治体には、上位にランクインしたことで人口の流入に寄与するようなメリットがあるのか。そのようなメリットがあれば、上位を目指していくことに意味があるが、数字が上がることを喜ぶだけということであれば、指標とする意味がないのではないか。

総合企画部長： 千葉県流山市では「母になるなら流山市」というキャッチフレーズを掲げて様々な施策を展開し、それにより実際に20～30代の転入者により人口が増えたという実例がある。地域ブランド調査は結果であり、その前段として、若者にとって魅力のある、またいろいろな方が訪れる市となるために、何に力を入れて施策を行っていくかを検討し、取り組んだ結果として、魅力度ランキングの順位が上がると考えている。

委員： かつてシティセールスの運営委員会長を務めていた。当時は、市の政策は全てシティセールスを担うということで、どこに焦点を当てて取り組んでいくかがはっきりしない手探りの状態でやっていた。今は、柏崎ファンクラブに重点を置いて取り組んでいるが、無料のファンクラブなので、会員数が増えていくと会報作成などの経費が増えていく。経費は、シティセールスの運営費用で賄っているため、会員を増やせば増やすほど、運営資金がなくなっていくというジレンマに陥っており、資金の確保が課題となっている。会員が増えれば、活動予算が削られていくという仕組みを改善していかなければ長続きしない。今後の展望などがあればお聞きしたい。

総合企画部長： 会員は現在7千人を超え、ファンクラブとしては1万人を目指して取り組んでいる。市から負担金を出しているわけだが、会員が増えれば固定費が増えるというのは御指摘のとおりである。シティセールス推進協議会の自立が最終的な目標であるが、すぐにというのは無理である。市長も、イベント中心の活動から今後は定住人口を増やすための活動に少しずつシフトしていただいたいとのことで、そういった視点を持って取り組んでいきたい。

企画政策課長： 先ほどの全国魅力度ランキングに関する質問について、上位自治体のメリットに関しては、直接的なものはない。上位の自治体は、1位が函館市、次いで京都、札幌、小樽、神戸、横浜、富良野、鎌倉・・・と有名所が占めている。認知度や、観光で訪れてみたいかなど、回答者の意識に関する指標を中心としたランキングであり、二桁以内のランキングに入っている自治体は、例年大きく変わっていない。県内では、魚沼市が107位、新潟市が138位となっている。

委員： 定住人口の増加や現状維持は、余り現実的ではない。今後、人口が減少していくことは免れないことを考えると、人口減少を前提とした財政の仕組みづくり等に視点を置いて施策を打っていかなければならないのではないかと。人口を増やすためにどうするのかと、人口が減っていく中でどうするかでは、取組方が違ってくる。特に財政面のことを考えても、人口が減っていく中でどうしていくかを考える方が現実路線だと思う。

総合企画部長： 定住人口の増加は究極の目標であり、御発言のとおり人口が減少しているという現実的な部分も視野に入れて施策展開をしていかなければならない。実際、第五次総合計画前期基本計画の財政計画は、人口減少を前提にして作成している。

【第4節 定住を促す魅力あるまちつくる／基本的方向1 若者の定住を促進する について】

委員： Uターンに関して、転出した人が今どこにいるのかは把握し切れていないのが現状であると思う。今の高校生は、当たり前のようにスマートフォンなどの情報端末を持っているので、転出の際に、その人の情報を捕まえるという施策を今後検討できないか。名前や連絡先を押さえておいて、いつでもその人と連絡が取れる仕組みを作っておくと、Uターンを促すときに、連絡や情報発信をすることが容易になるのではないかなと思う。

総合企画部長： 元気発信課では、卒業生を対象にファンクラブの入会案内を行っている。高校との連携について、御意見を参考に取組を検討したい。また、高校生が進路を決めるに当たっては、保護者の意向も影響していることから、保護者へのアプローチも行っていきたい。

委員： （報告書16ページ記載の）「ウェルカム柏崎ライフ応援ゲーム」とはどういったものか。また、どのようなシーンで活用しているのか。

総合企画部長： 平成29年度から30年度にかけて行った、市内のUターン・Iターンをした人を中心とした若手職員のプロジェクトチームによる、定住促進に関する提案の中の一つである。人生ゲーム的なすごろくのようなもので、それにより、U・Iターンを推進しようというものである。今年度の成人式でお披露目し、5月に開催した二大学の新入生歓迎会でも楽しんでもらった。また、有楽町のふるさと回帰支援センターでも紹介し、体験してもらっている。5セットの貸出用も用意しており、市内で活用してもらっている。

委員： 面白い取組なので、もっと広めても良いと思う。

【全体を通して】

子ども未来部長： 発言の訂正と補足をさせていただきたい。保育園の情報発信について、子育て応援サイト「すくすくネット柏崎」というものがあり、保育園に限らず子育てに関する情報を掲載しているので、御活用いただきたい。

委員： 子育て世代でそのサイトを知らない人がいる。先日、地域の人と子育てについて話をする機会があり、私は、そこで知ることができた。市内の子育て世代の皆さんに、このサイトがあるという情報は行き届いているのか。

子ども未来部長： 母子手帳交付の際に、チラシを渡して紹介している。また、何回か広報かしわぎにも掲載しているが、なかなか周知がうまくいっておらず、広まっていないため、今後も周知していきたい。

委員： 企業側は求人をしてもらえなかつた人が集まらないということと、学生がリクルートやマイナビ等を通じて求人情報を得ているという現状から、シティセールスのファンクラブ会員登録について、高校卒業生には強制的に登録してもらい、シティセールス推進協議会が学生と企業のマッチングを担うという提案をさせてもらう。また、スマホアプリのある自治体があると思うが、市でもスマホアプリを活用してシティセールスと連携したり、子育てや祭りやイベント情報の発信などができたら面白い。企業側も、必要な人材情報などをそこで得られれば良いと思う。

委員： 女性の就職ということを考えると、結婚前は男性と肩を並べて頑張れるが、結婚して子供ができ、保育園に子供を預けて働いても、急に病気になって看病で仕事を休まなければならないときが多々ある。子供が複数いればなおさらで、私は、同居しており、親の助けも借りながら子育てをしてきたが、同居ではなく実家も遠いとなると、本当に大変だと思う。保育園の入園だけでなく、病気になったと

きの対応が一番困る。また、夫婦で同じように勤めていても、家庭ではやはり母親業の割合が大きく、子育てが終われば、次には介護が待っている。そういった環境について、企業側の理解も大切だと感じる。

委員： 若者の流出を防ぐために、魅力を知って柏崎を好きになってもらい定住人口を増やすことや、大都市に集中しているような若者にとって魅力のある娯楽施設などを誘致して人を呼び込む方法など、これまでも議論されてきていると思う。地方進出に着目している企業もあると思うが、そういった大企業の誘致は地場産業の圧迫につながるため、どちらとも決められず、堂々巡りになっている。市としては、地元産業の活性化を図りながら、若者の流出抑制や人を呼び込むことがしたいのか、大企業の誘致を進めていきたいのか。市の優先順位を示してもらった方が、委員の皆さんは、それを踏まえて、次回以降の議論において意見を出しやすくなると思うがどうか。

産業振興部長： 基本的には、今ある産業の活性化を図りながら、若者の地元定着を目指すということが大切だと感じている。御発言のとおり、大型店を誘致する場合には、現在も地元産業との兼ね合いにも配慮しながら進めている。一方、働く場の確保という点では、大きな企業を誘致できればそれがかなう。地場産業の振興を図りながら、新しい企業の誘致も行っていかなければならない。その兼ね合いを、行政がしっかりと見極めていかなければならないと思っている。

委員： 難儀な問題だと思うが、委員の皆さんもその条件付きの背景に考慮しながら、他が思いつかないようないい案を出していければと思う。

(5) 柏崎市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

資料に基づき事務局から説明

(6) その他 次回、会議（第2回総合計画審議会）の開催日について

次回以降、12月までの総合計画審議会及び総合戦略策定委員会の日程が次のとおり決定した。

9月24日（火）14時から 第2回総合計画審議会

10月17日（木）14時から 第2回総合戦略策定委員会

11月11日（月）15時から 第3回総合計画審議会・第3回総合戦略策定委員会（同日開催）

12月26日（木）14時から 第4回総合計画審議会

※会場は、9月は第1会議室、10月から12月は大会議室

(7) 副会長挨拶

(8) 閉会 総合企画部長から閉会挨拶